やくみつるのおききなさい。

1959（昭和34）年３月12日（木）東京都世田谷区生まれ　早稲田大学漫画研究会同人。社会、政治、スポーツ、芸能など森羅万象を題材にヒトコマ、四コマ漫画を手がける。クイズ番組の常連の一人。

相撲ブームを本物に！　諸君、頼むゾ

さて「朝日中高生新聞」と改題、読者対象も大きくひろがったことで何を伝えようか。

やはり大相撲から。先月開催された秋場所の中日、ＮＨＫ大相撲中継の正面放送席に招かれたのだが、トークの主たるテーマは「この大相撲ブームは本物か」――。

なるほど秋場所も連日満員札止めの盛況。薬物問題や暴行事件、八百長の発覚などで地に墜ちていた大相撲人気が、ここへ来て俄然回復している。

ではナニユエにと考えたとき、さまざまな理由は考えられるも、つまるところ「謎」ということに落ち着いてしまった。それほどに不思議な活況ではある。

もちろん遠藤という清潔感溢れる新鋭が現れ、大相撲にまとわりついていたさまざまな負のイメージを払拭してくれたこともあるだろう。また、日本全体が元気を失いがちであったこの時期に、海外からの観光客は急増。彼らが日本のすぐれた点、いいところを指摘してくれ、日本人が改めて気づかされる――そんな趣向のテレビ番組が人気を博すなど日本再発見の風潮みたいなものが漂いだしたとも見てとれる。その中に大相撲もチャッカリはまったか。しかし、いずれも決定打とは考えられず、結局は正解を導き出せなかった。

ただ、言えることとして、このブームを本物として定着させるにはお子たち――読者の中高生諸君も当然、その範疇――を引き込まなければ、長くは続くまい。

現状、やはりそこまではいっていないだろう。中高生諸君が教室で「昨日の逸ノ城の強さはハンパねえ！」――なんて会話を交わしていたか？

ここはまず、クラスに１人はいるはずの奇特な相撲ファンの啓蒙活動に期待したい。話題を振って「イイネ！」と言わせ、引きずり込んでいくことから始めようじゃないか。よろしく頼んだゾ。